



しじゅうから

福島市小鳥の森通信2018年1月号 No.385

小鳥の森で観察してみよう 74

ヤツデ

ウコギ科

木の高さ：1～2m

葉の大きさ：20cm以上になる
こともある。

生態：

他の花が少ない11月～1月ごろに
花を咲かせる。

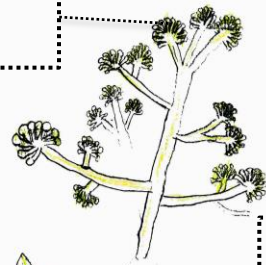
気温が高い日はミツバチなどが蜜
を集めに訪れる。

春に黒い果実をつける。

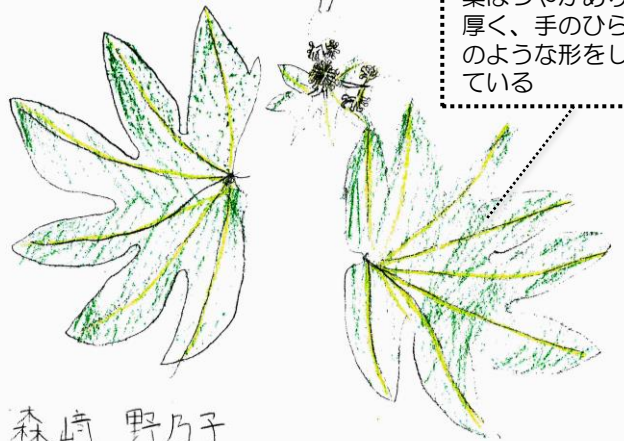
小鳥の森での観察：

日当たりの悪い池のまわりや竹林、
森の中で見ることができる。

小さな黄白色の花が
集まって咲く



葉はつやがあり
厚く、手のひら
のような形をし
ている



森崎 野乃子

今回の絵は、森崎 野乃子さんが描いてくれました。

1月の自然予報

1月に入ると、小鳥の森では雪が降る日も
増え、雪で地面が見えなくなることがあり
ます。

地面が見えなくなると、普段は地面で落
ち葉の下に隠れている昆虫を食べたり、草
の実などを食べたりしている野鳥は、食べ
物がとれなくなってしまうので、給餌台に
訪れることがあります。

カワラヒワやシメなどおなじみのメン
バーの他にも、シロハラやルリビタキなど
普段は給餌台に訪れることのない野鳥が
やって来ることがあります。

シロハラやルリビタキはひまわりのタネ
を割って食べるのではなく、割れて中身が
出たものを見つけて食べているようです。

冬を生き残るのは、野鳥にとってとても
大変なことです。

給餌台でひまわり
のタネをくわえる
ルリビタキ



給餌台に来たシロハラ

12月の自然

12月に入ると木々の落葉が進み、赤や紫色の実がとても目立つようになりました。

自由広場や観察広場では、ピラカンサやウメドキなどが、森の中では、ナツハゼやムラサキシキブなどの実がよく目に入りました。

また、地面に目を落とすと、ツルリンドウやオオバジャノヒゲなどの実も見つけることができました。

木の実や草の実は、赤や紫色に熟すことで野鳥などに食べごろを知らせています。エサの少なくなる今頃、このような実は、冬を越す野鳥にとって貴重な食べ物になります。

動けない植物にとっても、食べられることによって遠くまでタネを運んでもらえるため、野鳥はとても大切な存在です。



ピラカンサ



ウメドキ



ナツハゼ



ツルリンドウ



ムラサキシキブ

小鳥の森スタッフだより

水鳥のひみつ

冬になると、北からカモやハクチョウなど、多くの水鳥が福島市にもやってきます。水鳥たちは、寒い日でも冷たい水の中に足をを入れて何時間もすごしています。もし、人間が同じことをしたら、しもやけになってしまうことでしょうか。なぜ水鳥たちはしもやけにならないのでしょうか、とても不思議です。

実は鳥の足の付け根付近には、「ワンダーネット」と呼ばれる、静脈と動脈が網の目のようにはり巡らされているところがあります。ワンダーネットでは、足に行く血液は冷たくし、体へ入る血液は温くなるように、血液の熱交換を行うのです。これによって、鳥たちの足は冷たい水の中でもしもやけになることなく、普通に暮らすことができるのです。

普段何気なく見ていることに対して、当たり前と思わず、「なぜだろう」と疑問を持つことが世紀の大発見につながるかもしれません。



(レンジャー 五十嵐悟)

里山文化体験 「一貫張り」を開催しました

12月14日に里山体験シリーズ・一貫張り体験を開催しました。竹かごに和紙（古文書）や古い着物のはぎれをはり、その上から柿渋を塗ります。とても丈夫になり一貫目（約4kg）の重さに耐えられるということから「一貫張り」と呼ばれるようになったと言われています。



今回の作品

当日は15名が参加し、講師の菅野和子さん指導で会津の根曲がり竹をつかった小物入れの一貫張りに挑戦しました。曲線の部分に和紙を張るのは難しく苦労していましたが、参加者同士楽しくおしゃべりしながら思い思いの作品を完成させていました。



一貫張り体験の様子

※福島市小鳥の森では色々なイベントを開催しています。
詳しくはネイチャーセンターまでお気軽にお問い合わせ下さい。

*小鳥の森ホームページで小鳥の森スタッフが独自に測定した環境放射線量を公開しています。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel: 024-531-8411 fax: 024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2018年1月号No.385/企画・発行：福島市小鳥の森/日本野鳥の会ふくしま